

校長室だより

3月号

杉並区立向陽中学校
令和2年3月25日発行
校長 菅野武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して

【今年度のキーワード】

「チーム向陽 ～組織対応・説明責任～」

令和元年度 12月実施「学校評価アンケート」
保護者の自由意見に対する回答

◇ 学習指導・評価評定等について

□「国語の時間に感想を書く時間が短いとされていて十分に書けないと子供が言っている（1年）」とのご指摘がありました。→国語科に確認したところ、感想を書く場面が2つあるとのこと。ひとつが新しい単元の教材を読んだ感想（30分程度）、もうひとつが毎時間の自己評価の振り返りで書く感想（数分間）です。ご指摘の感想がどちらかは不明（おそらく後者か）ですが、今後は生徒の様子をよく観察させ、書く時間をしっかりと確保させたいと思います。

→「社会（地理）の授業が果たしてシラバスに沿っているでしょうか？復習する度に子どもは印象に残っていないとボヤいています」とのご指摘がありました。教員に確認したところ、途中で調べ学習を入れることはあるものの、ほぼシラバス通りに授業は行っているとのことでした。もしお子さんが印象に残らず、どこを学んでいるのかが分からないときには、先生に聞くようお願いください。よろしくお願いします。

□「美術の評価は、定期考査の割合が1割でその他9割が作品と授業態度だと1学期に先生から子どもたちに説明があったそうです。4つの観点は同じ重みの25%ずつですが、その観点の中で評価の割合にかなり偏りがあるなら、教育課程説明会で保護者にも説明が必要だと思います。副教科は内申が2倍以上になる上に、作品は点数としては見えにくいものなので、より丁寧な説明を望みます」とのご要望がありました。→美術科に確認したところ、定期考査の評価の割合について生徒に説明した事実を確認するとともに、教育課程説明会の資料「シラバス」に明記することを確認しました。

□「掲示などしなくていいので、定期考査の（分布ではなく）席次を教えてください」とのご要望がありました。→過去に集団内のどの位置にいるかによって個々の能力や成績を評価する「集団に準拠した評価」（いわゆる相対評価）を行っていましたが、現在の学習指導の評価は「目標に準拠した評価」（いわゆる絶対評価）に変わっています。学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価が重視されるようになってきています。こうしたことを踏まえ、学校では定期考査の結果を評価材料の一部として、得点や平均点、得点分布をお知らせしていただくことをご理解ください。

◇ 学校生活等について

□「荷物が多すぎると思います」とのご指摘がありました。→生徒が毎日登下校する際に持ち運ぶバッグの重さについては、毎年のように指摘をいただいているところです。学校でも「学校に置いてよい教材」（いわゆる「置き勉」）の範囲を広げ、生徒の重い荷物の軽減に取り組んできました。生徒の学習に支障が出るようでは本末転倒ですので、そのようなことにならないよう学校でも指導をしますので、ご家庭でも時々我が子の荷物をご確認していただけるとありがたいです。

□「最近、女子のトークがうるさいと言っていて、すみませんなるべく班などを決める時はおしゃべりでない女子と一緒にしていただけるとありがたいです」とのご要望がありました。→生徒指導に関する個別的な対応になりますので、所属学年・学級の教員に伝えたいと思います。

□「毎朝の支度が大変なので制服を作ってください」とのご要望がありました。→標準服ではなく私服であることは、向陽中学校の校風や生徒の実態に合致したものだとして校長として判断しております。ご理解ください。

□「11月の土曜授業は、小学校と同じ日程にならないでほしいです。小学校の学芸会や音楽祭など兄弟がいると行きたい人がいますので、よろしく願いいたします」とのご要望がありました。→土曜授業は原則第2土曜か第4土曜に行うことになってはいますが、学校や地域の実態に合わせて決めることができます。例えば、運動会は小学校と重ならないようにしています。11月の土曜授業については、できるだけ調整するよう努めますが、必ずそうできるとは言い切れませんのでご理解ください。

□「定期テスト前日の平日の授業を午前授業にしてほしいです（勉強時間確保のため）」のご要望がありました。→学校では定期考査2週間前に「範囲表」と「計画表」を配付し計画的に学習するよう指導しています。また、1週間前より部活動など放課後の活動を中止し、生徒が定期考査の勉強に集中できるようにしています。学校は生徒の学力定着を図りますが、同時に物事に取り組む「計画性」、物事に取り組む「継続性」、物事に取り組む「忍耐力」を身に付けることもねらいとしています。定期考査前日の午前授業が果たして生徒にとってどれだけ有効に働くかを判断することは難しいですが、検討したいと思います。なお、今後定期考査自体の在り方を検討する必要があるようです。考査範囲を決めて一定期間に知識などを詰め込む方式の定期考査が果たして有用か否かの検討が必要な時期になってきました。

□「2年のうちから進路意識をもたせる活動をすべきだと思います」とのご指摘がありました。→本校では第2学年において、将来を見据えた進路学習として「職場体験学習」や「中学校卒業後の進路」、そして「上級学校説明会」（今年度は臨時休業で中止）を行っています。また、定期考査の計画的な学習を通して進路について考えさせる指導も行っています。

□「三者ではなく二者（子ども抜き）の面談もあるとありがたい。（子の前では言えないこともあるので）」のご要望がありました。→学校は原則、生徒を含めた「三者面談」としてしていますので、もし、生徒の同席しない二者面談も要望する場合には事前に担任に相談してください。

□「給食があまり美味しくない子どもから聞いています。特に、アルミカップに入ったグラタンはアルミの味がして、食べるのがつらそうです。少しでも改善していただきたいです」とのご指摘ご要望がありました。→指摘のあったアルミカップ入りグラタンの味については、栄養士

並びに調理員に伝えます。その上で改善に努めます。なお、給食についての生徒の反応はすこぶる好評で完食する学級が多くありました。

□「いじめに関する対応は近年学校の努力を感じます。いじめの要因の一つとなる“人と違うこと、多様性の理解”という点の教育がまだまだ不足していると思います。発達障害児、障害者、LGBT、社交的な子、控えめな子 etc…世の中にはいろいろな人がいて受け入れて認めて、関わって共生していくことの大切さを、学校でも意識的に伝えてほしいです」とのご指摘ご要望がありました。→共に生きる「共生社会」の視点を踏まえ指導を充実させたいと思います。

◇ 部活動について

□「いつも熱心な部活動での指導に感謝しています。働き方改革と言われているなかで、やりがいをもって取り組んでくださっていることが伝わってまいります。同時に、熱意だけに頼ることのないシステムになることを願っています」→本校の部活動への御理解をありがとうございます。また、御指摘の熱意に頼ることのないシステムの構築は学校の喫緊の課題であり、持続可能な部活動をどのように構築するかが問われています。現在、部活動活性化事業や外部指導員、部活動保護者見守り制度などで教員の負担軽減を行っているところです。

□「昔と気候が違うのだから、高気温時の部活動休止など、子どもたちの健康を守る対策をしてほしい。何かがあってからでは遅すぎる」とのご要望がありました。→学校では特に高温時期には杉並区の気温と本校の温度計（校庭・体育館）の気温を確認して部活動の実施を決めています。30℃～34℃では、何かおきに水分を補給させたり、休憩を取らせたりして、生徒の健康状況を観察しながら行っています。35℃を超える場合には活動を休止しています。ただ、気温や湿度によってはこうした原則にこだわらず、活動を休止するようにしています。「何かがあってからでは遅すぎる」とのご指摘を肝に銘じ、学校全体として取り組んできます。

◇ その他の意見

□「いつもご指導本当にありがとうございます。夏休みの短期補習教室がとてもありがたかったです。数学と英語につまずきを感じているようですが、Cafe 勉にも行こうとせず学校でもなかなか聞いて身に付けようとせず悩んでいます。冬休みや学期中でもまた開催があればぜひ参加させていただきます。先生方の負担が増えないよう、有料でも何か方法があればよいのですが…」→できる範囲で検討しますが、まずはお子さまから積極的に先生に聞いたり友達に聞いたり、Cafe 勉に行ってみたりすることをお勧めします。

□「いつもお世話になっております。学校行事を参観するたびに、いい学校だなあと実感することが多いです。難しい時代ですが、よりよい方向へ改革にも取り組んでいただいているし、先生たちが子どもにしっかりと向き合ってくださいているので、ありがたく思っています」

□「校長先生の考えや他学年の様子を知ることができる向陽日より、学年全体の動きがわかる学年日より、子どもの日々の様子わかるクラスだよりを通じて子どもの学校生活をよく知ることができています。まめに作成して下さり、助かります」

□「いい先生、仲間に囲まれ、充実した中学校生活を送っていると思います。ありがとうございます」

□「…その中で現場の先生方は本当によくやってくれています。お世話になりました。…学校は勉強するところです。日々の学校生活のなかで“わかった！”“そうなんだ！”が子どもの

心の中にたくさん感動がありますように、これからもよろしくお願いします。感動したことは忘れないと思います。一人も漏れることなくこの感動を経験できますように願います」

◇ “がんばれ！自分。私がやる！”』を求めて ～向陽中生の手応えより～

向陽中生を“自立した学習者”に育てたいとの思いでこの一年取り組んでまいりました。どこまで迫ることができたか。教員の自己評価は肯定率 83.3%でした。十分とは言えない実態がありました。一方、生徒の手応えはどうであったかを見てみたいと思います。※数値は「学校評価アンケート」の生徒の4段階評価の肯定率(%)を示している(左より1年・2年・3年：全校)

□ **学ぶ** (能動的な学習)

○「私は自分で課題を見つけて、進んで勉強するようになった」

→ (58.5・50.7・82.5：**63.9**)

○「家庭学習は毎日おおよそ何時間くらいやっているか(塾など学校以外での学習も含む)」

※1時間以上の割合を示す → (46.9・45.0・80.5：**56.9**)

□ **自立** (自立的な態度)

○「私は多くの人と互いに助け合ったり、協力したりして学校生活を送っている」

→ (84.5・80.8・88.9：**84.8**)

○「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」→ (78.1・72.7・81.7：**77.6**)

○「私は4月以降、学校や地域でのボランティア活動に参加したことがある」

→ (66.3・60.3・52.8：**60.2**)

□ **創る** (協働的な態度・自己肯定感)

○「私は運動会や向陽祭などの学校行事に楽しく積極的に取り組んでいる」

→ (84.4・82.3・90.2：**85.6**)

○「私の学級は学年行事や学校行事などの取組みを通して、協調性や団結力が高まっている」

→ (89.4・92.0・81.5：**87.6**)

○「向陽中学校は、運動会や向陽祭などの学校行事に全校が一体となって取り組んでいる」

→ (87.4・92.1・91.4：**90.1**)

○「私は毎日の学校生活が楽しい」→ (81.1・76.6・84.1：**80.7**)

○「私は向陽中学校が好きである」→ (83.2・80.5・85.2：**83.0**)

□ **思いやり・感謝** (人として生きることの土台づくり)

○「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝したりするようになっている」

→ (86.0・82.7・86.3：**85.1**)

＝ 令和元年度を終えるにあたり 皆様方への感謝を込めて ＝

急転直下。青天の霹靂。長年、学校経営に携わっておりますが、突然の学校休校に茫然自失の体でした。まさか新型コロナウイルス感染の影響がこれほどまでになるうとは。地域の皆様方には、卒業式に御参列いただけなく誠に申し訳ございませんでした。卒業生は立派な姿を見せ、向陽中学校を巣立っていきました。これも地域の皆様方の御理解・御支援の賜と深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度も多くの保護者の皆様並びに地域の皆様に向陽中学校を支えていただきました。“向陽中学校”が私には心地よく響きます。皆様方と「人として生きるって素晴らしいな！」という『人間賛歌』を共有できましたことに深く感謝申し上げます。菅野 武彦